

第53回 令和7年6月30日（月）

「日曜日はサッカー部の公式戦を聖光学院で観戦しました。結果は快勝でした。次の2次予選もこの勢いで頑張ってください！」

聖光学院のコートの人工芝はやっぱりすごいですね。あの場所で試合できることが高校生にとって良いことだと思いました。また相手の厚木も最後まで粘り強く戦っていて、いいゲームでした。

保護者がたくさん観に来てくれていましたが、今日は「親孝行」について。

私の父は25年前に亡くなり、今年の初めに母も亡くなりました。「孝行したいときに親はなし」とは良く言ったもので、もっとしてあげたほうが良かったと思うことも多々あります。

母は一言で「すごい人」でした。田舎が青森で、結構大きな家だったのですが、他人の保証人になったことで家がなくなりました。

一人で東京に出稼ぎに出て、余裕ができたところで自分の両親、兄弟をみんなこちらに呼びました。私の父の仕事が一時期うまくいかなかったときも、母は自分で稼いで家を建て、私にも不自由な思いはさせませんでした。

母は小説家になりたかったくらい本が好きで文章を書くのが得意だったのですが、仕事は「そろばん」一つで会社を支える経理でした。いくつかの会社に雇われていましたが、年をとっても頼むからやめないでくれと言われるほどでした。

気が強くわがままなところがある人でしたが情に厚く、常に人に慕われていました。晩年なかなか外に出られないときでも色々な人が助けてくれ、頻繁に会いに来てくれていました。

私の中ではいくつになっても超えられない人です。たまに自分が載った新聞記事を見せると本当に喜んで部屋に貼っていましたが、私もそれがうれしくて自分の励みになっていました。

親の愛は無償の愛です。見返りを期待しているわけではありません。たまに「うるさいな」と思うことがあっても、それがみなさんのことを思って言っているというのがずっと後になってわかります。

18歳で成人と呼ばれる頃までは親に迷惑をかけることも多いと思いますが、親からしてみるとそれは嬉しいことです。毎日のお弁当や部活動や塾のお金、たまに迎えに来てくれることもあるかもしれません。それは遠慮せずに甘えていいと思います。

自分が働き始めてから、親への感謝を少しずつ形にできるといいと思います。自分が家庭を持つと自然と親との距離も遠くなりがちです。早めに親孝行を始めてください。

最後に高校生のみなさんでもできること。たまに感謝を口にしてみてください。少し照れくさいかもしれませんが、親はそれを一生覚えています。